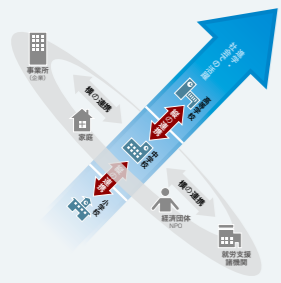


## 教育活動をキャリア教育の視点でつなごう

# 各学校の取組の活性化！



小学校・中学校・高等学校においては、児童生徒がそれぞれの発達の段階におけるキャリア発達上の課題を達成することができるよう、学校の教育活動全体を通じて、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力・態度の育成に計画的、組織的に取り組むことが期待されている。

教育委員会にあっては、各学校がキャリア教育の目標を立て、その実現のために指導内容・方法を工夫しながら、学校の教育活動全体を通じて、キャリア教育に取り組むよう指導・援助し、キャリア教育の推進を図ることが求められる。そのためには教育委員会が、各学校のキャリア教育の現状と課題の把握に努め、それに基づく改善方策等について適切な助言を行う必要がある。



### 改善

## 改善すべきことは何か？

小学校	中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育を通して身に付けさせたい能力や態度を確認し、共通理解を図る。</li> <li>●学級だけでなく、学年単位や学校の教育活動全体を見直し、計画を立てて取り組む。</li> <li>●キャリア教育の担当者を決め、推進体制を作り、取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●将来の生き方を視野に、キャリア教育の視点から進路指導の在り方を見直す。</li> <li>●職場体験等の体験活動を重視しながら、各教科等との関連を図った体系的な取組を計画し推進する。</li> <li>●学校全体で推進できる組織・体制を作り、3年間を見通した体系的な取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育の視点から、ホームルーム活動やこれまでの進路指導、就職指導の在り方を見直す。</li> <li>●体系的な指導計画を立て、組織的・計画的なキャリア教育に取り組む。</li> <li>●進路指導部（キャリア教育担当分掌）を中心に学年や担任等との連携を深め、関係機関との連携を図った指導体制を構築する。</li> </ul>

### 指導のポイント

## 教育委員会による指導のポイント！

- 1 教職員の意識改革のために**  
・すべての教職員にキャリア教育を正しく理解させ、その意義と必要性を十分に認識させたいうえで、日常の教育活動の中で、具体的に実践できる力を高めるための研修を充実させる。
- 2 指導計画の立案のために**  
・各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等をキャリア教育の視点で関連付けるよう見直す。  
・子どもの実態に応じて身に付けさせたい力等を明確にし、その育成方法の具体を示す。
- 3 推進組織・体制の構築のために**  
・校務分掌で担当者の役割を明確にして、学校全体で取り組む推進体制を構築する。

小学校	中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校段階からのキャリア教育の必要性を認識させるため、校内外の研修を推進する。</li> <li>●キャリア教育に関連の深い教科等をもとに全体計画を立てるよう指導する。</li> <li>●学級担任がすべての教科等を見渡しやすいという特性を生かしながら、キャリア教育の視点で教科等をつなぎ体系的に取り組む指導体制づくりを促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア発達における個人差を認識し、個々の生徒に応じた指導となるよう助言する。</li> <li>●体験活動の指導では、事前・事後指導と直前・直後指導との指導目的を区別して、指導する。</li> <li>●教科部会や生徒指導部会と連携した推進体制となるよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教科の学習と社会的・職業的自立に必要な能力との関連を伝えるとともに、家庭・地域との連携を通じて、特色ある教育活動を展開するよう指導する。</li> <li>●体験的な学習機会の計画的・系統的な提供を通して、進路を研究し、自己の適性の理解、将来設計の具体化を図らせる。</li> <li>●校務分掌を有機的につないでキャリア教育に取り組む体制づくりを推進する。</li> </ul>

### 現状

## 各学校の現状はどうなっているのだろうか？

各学校種におけるキャリア教育の現状と課題

小学校	中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育の意義や必要性あるいは指導内容・方法の理解について教職員間に差があるなど、教職員のキャリア教育に関する理解が必ずしも十分ではない。</li> <li>●指導内容・方法が未開発で、夢や希望の育成といった指導に偏っている。</li> <li>●学年や学校全体で取り組む組織・体制が未整備で、学級担任個々の取組になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育と進路指導との関連が図られておらず、本来の理念に反して出口指導に偏る傾向がある。</li> <li>●多くの学校が職場体験に取り組んでいるが、その事前・事後の指導が不十分であり、体験活動に終始する傾向がある。</li> <li>●学年ごとの優れた活動や指導方法等が学校全体の取組として、継承、改善されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育の意義や必要性の理解が不十分で、従前からの進路指導や就職指導に終始する学校が少なくない。</li> <li>●キャリア教育の全体計画や各学年の年間指導計画などが立てられていない。</li> <li>●ホームルーム活動等における指導内容・方法の開発が十分に行われていない。</li> </ul>

### 課題

## 現状から見えてくる課題は何か？

- 1 教職員の意識にばらつきがみられる**  
(キャリア教育の意義や必要性などが十分理解されていない)
- 2 指導計画を作成している学校が少ない**  
(キャリア教育の目標、指導計画及び指導内容・方法が確立されていない)
- 3 推進組織・体制の構築が進んでいない**  
(校内連携、学校種間及び家庭・地域との連携が不十分)



※各資料については、それぞれのサイトからPDFをダウンロードできます。(裏表紙参照)

更なる  
活性化のために！  
既にある資料も活用しよう！